

第 18 回大図研オープンカレッジ

今あえて目録を語ろう

	イマ アエテ モクロク オ カタロウ 今あえて目録を語ろう (第 18 回大図研オープンカレッジ)
日 時 会 場	2009 年 6 月 13 日 (土) 14:00~17:00 T's 秋葉原 JR 山手線 秋葉原駅より徒歩 5 分 http://www.tsrental.jp/location/akihabara/map.html
講 師	渡邊隆弘氏 (帝塚山学院大学准教授) 牛崎 進氏 (立教大学)
会 費	1,000 円 (大図研会員・学生) 1,500 円 (非会員)
014.3	

お申し込みは、件名を「参加申し込み」とし、氏名、所属、会員・非会員の別、連絡先アドレスを明記の上、doc-entry@daitoken.com にお送りください。

今年の大図研オープンカレッジは「今あえて目録を語ろう」と題して開催します。

2009 年 2 月に新しい「国際目録原則覚書」(IFLA 目録分科会) が刊行され、AACR2 の大幅な改定版 RDA (Resource Description and Access) の刊行も本年中に予定されるなど、ここ数年目録に関する大きな動きがあります。いくつかの雑誌でも目録特集が組まれ議論が盛んですが、身近な問題として考えることはむずかしくなっているのではないのでしょうか。

コピーカタログングやアウトソーシングが進み、また、Google に代表される検索エンジンの台頭によって OPAC の機能不全が指摘されるようになり、目録の相対的な価値は下がるばかりです。また、FRBR などという単語も聞かれるようになりましたが、目録に関する議論はマニアックなものばかりで、自分の仕事にどう関係してくるのかよく分からないと感じてしまうかもしれません。

国内でも、NACSIS-CAT や NDL をめぐる動きが活発になってきました。目録を支えるスタッフのスキルアップとその維持、共同分担目録の理念と実際、など議論のタネはたくさんありますが、しかし、どこかよそ事のような気がしていませんか。

講師の方々と参加者の皆さんとで一緒に、今あえて、目録について語りあってみませんか？